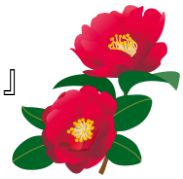
ことばと発達のサポートルーム

ゆうき

甲府市立善誘館小学校
通級指導教室　　No. 5
２０１９年２月１８日
TEL　２３２－３９６３
FAX　２３２－２４０３



寒さの中にも，春の始まりを感じられることが多くなってきました。
今回は，あまり知られていない『選択性緘黙（せんたくせいかんもく）』『愛着障害（あいちゃくしょうがい）』についてお話します。

＜選択性緘黙（かんもく）とは＞

子供がある特定の状況（多くは学校）で全く話さない状態が，一時的ではなく数年間続くような場合を「選択性緘黙」といいます。世界共通で発症率は 0.2%（500 人に 1 人）ぐらいです。女子の方に多く見られます。
ＷＨＯ（国際保健機関）の基準には「小児期に発症する情緒障害」とあります。

なぜ話さない？どうしたらいい？

家では普通に話しているのに，「どうして？」と保護者は心配しますし，担任は「他の子を大声で叱ったせいで，この子が怯えてしまったのか？」などと悩んだりします。けれども保護者や担任のせいではありませんし，熱意をもって声掛けをすれば改善するというものではないことを理解してください。
もし身近な子供がこういう状態だったら，「大丈夫！言ってごらん」と励ましたり，「一緒に言おう。せーの」と促したりしてはいけません。
また，その子供がふと（うっかり）声を発しても喜んだり褒めたりしてはいけません。その子に「声が出ない自分」をもっと強く意識させてしまうからです。

英語で「disorder（ディスオーダー）＝オーダーできない・思い通りにならない」が日本語で「障害」と訳されました。まさに「選択性緘黙」は，自分では思い通りにならないのです。自分で「話せない状況を選択して」いるわけではないのに，何かの緊張や不安が無意識に発声を妨げるのです。周りが心配して気を使ったりなんとか話させようとしたりすると，かえってその子にプレッシャーを与えることになります。

何事もなかったように

こういう子供も，学習能力やコミュニケーション意欲は普通にあります。だから声を出さなくても意思を伝える代替手段（ジェスチャー・指差し・筆談など）をさりげなく工夫してあげればよいのです。周りの子供にも代替手段に慣れさせること，声を出さなくても仲間外れにならない，温かい雰囲気を作ることが大切です。
ほとんどの事例で，緘黙の子供は数年後「普通に話す中高生」になっているそうです。何事もなかったように。ある教師が街で話しかけてきた教え子（元緘黙児）の明るさに驚いて小学生のころの気持ちを訊いたそうです。すると「私が学校で話せないと知っている人の前では本当に声が出なかった。卒業して私のことを知らない人ばかりになった時から話せるようになった。自分でも不思議。」と笑顔で語ってくれたそうです。

＜愛着障害とは＞

「子供の頃に，他者（特に養育者）に対する安全感・安心感を獲得することができなかったために引き起こされる障害の総称」といわれています。警戒心が強く，本当は甘えたいのに怒ったり嫌がったりする抑制型と，反対に，無警戒で，誰にでも甘えたがる脱抑制型とに分類されます。どちらも**他者との適切な距離感がとれず，非常に不安定**なのが特徴です。自閉症やＡＤＨＤなどの発達障害と似た特徴を持つため，対応が遅れがちになります。

愛着障害を発見するポイント

□正面や後ろから近寄られるのを嫌がる。
□大勢の前で，人にべたっと抱きついたり，飛びついたり，まとわりついたりする。
□床に寝転んだり，机や壁に触りながら歩いたりする。
□口にものや指を入れたり，噛んだりする。
□特定の時間に多動になる。（例：月曜日の午前中に落ち着かない）
□ベッドや机の周りに物を並べる。物が散乱し，一見，片付けができないように見える。
□姿勢が悪く，体を左右に揺らしたり，椅子漕ぎをしたりする。
□高い所（机・ロッカー・遊具などの上）に登ったり，高い所から物を投げたりする。
□大きな怪我でも痛がらないのに，少しの怪我でもアピールしたり，自作自演の事件を起こしたりする。
□自分の非を認めない。人のせいにする。

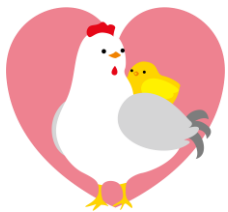
愛着障害の誤解

（×）愛着障害は施設で生活する子や虐待を受けた子に特有の障害である。
⇒愛着障害は誰にでも起こりえます。子どもが愛着の欲求を示した時に，周囲の大人が，スマホやテレビ・ゲームなどでやり過ごしてしまうと，愛着の形成を妨げます。

（×）愛着形成は乳幼児期を過ぎると手遅れ，取り戻せない。
⇒臨界期というものはありません。幼児期を過ぎても**適切な働きかけによって愛着を形成することが可能です。**

（×）親にしか形成・修復はできない。
⇒愛着は「特定の人と結ぶ情緒的な心の絆」であり，その「特定の人」は「特定の一人」を指すわけではなく，父母や祖父母はもちろんのこと，保育士・教師・心理士など他人でもなりうるものです。

日常の生活でできること



◎愛着欲求をストレートに受け止めてあげましょう。
◎大人の方から，子どもができそうな活動に誘い，
できたことを**具体的に**褒めてあげましょう。
・**『ちゃんと』『しっかり』『きちんと』**は**ＮＧワード**。
「ちゃんと置けたね。」ではなく「靴のかかとをそろえて置けたね。」
◎一回だけでいいミッションを設定してやってみましょう。
・「何でも残さず食べよう。」ではなく「苦手なピーマンを１つ食べよう。」